

史跡仙台城跡保存活用計画（案）の概要

計画策定の目的と沿革（第1章）

仙台城跡は近世を代表する城郭として重要であるため、平成15年8月に史跡に指定されました。史跡の保存管理と整備のための計画として「仙台城跡整備基本構想」（平成16年3月）、「仙台城跡整備基本計画」（平成17年3月）がありますが、策定から10年以上が経過していることから見直しを行うこととしました。

文化財保護法では文化財の保存と活用を図るとうたっているように、保存と活用は文化財の保護の両輪といえます。私たちのまち仙台の礎といえる仙台城跡を後世に伝えるとともに、まちづくりに活かしていくための保存活用事業を適切に実施することを目的として、保存管理のみならず広く活用・整備等を視野に入れた保存活用計画を策定します。

<計画期間>

おおむね20年間としますが、定期的に自己点検を行い、場合により見直しの必要性を検討します。

史跡の概要（第2章）

仙台城跡をとりまく自然的環境、城の歴史と縄張、法的規制など

史跡の現状（第3章）

史跡指定の状況、これまでの調査成果など

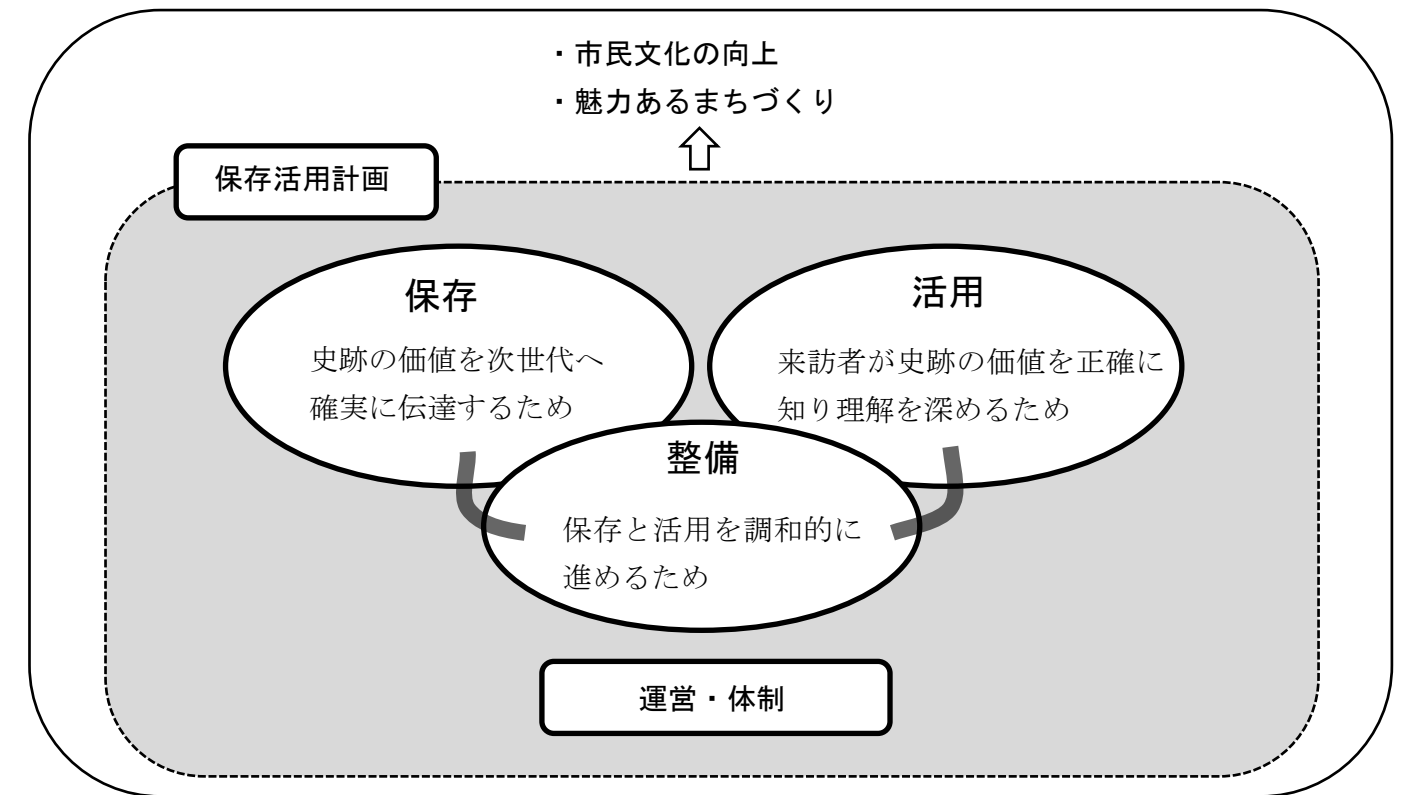


本丸北壁石垣

史跡の価値（第4章）

- 我が国近世を代表とする城郭としての姿がよく残されており、石垣修復工事に伴う調査では3期にわたる石垣の変遷が確認されたほか、金箔瓦やヨーロッパ産ガラス器など重要な遺物が出土しました。
- 地形的条件を巧みに利用し防御性を高めた城郭であり、遺構と連続性をもって価値を形成する豊かな自然環境が、城郭としての特性をより深めています。
- 関ヶ原合戦直後に築かれた山城と、徳川政権確立期に築かれた二の丸という、当時の社会情勢を反映した縄張が確認できます。

※今後、さまざまな調査を進めることにより、新たな価値が付加されていきます。



現状と課題（第5章）

（主なもの）

○樹木等と遺構保護・景観

仙台城跡は豊かな自然環境と共存しているという特徴がありますが、一方、樹木の根が石垣や土塁の変形の原因となる場合があります。また、城跡からの眺望や周囲からみた景観に樹木が影響を与えている面もあります。そのため、樹木等の維持管理について検討する必要があります。

○史跡地内を通る市道

史跡指定地内を、通勤や観光等のために多くの車両が通っていますので、遺構の保存や安全な見学への影響について検討する必要があります。

○継続的な調査

計画的な発掘調査や史資料調査などを継続して行う必要があります。

○青葉山公園整備事業との連携

追廻地区の整備事業が史跡の活用につながるよう、連携していく必要があります。



大橋から見た本丸跡

保存と活用の大綱 (第6章)

(主なもの)

- 仙台の歴史の原点となる仙台城跡のさまざまな価値を保持しつつ、歴史の正しい理解を広めるとともに、仙台らしい都市空間づくりの中核となる事業として、保存管理と活用を図ります。
- 仙台城跡が位置する青葉山地区の歴史的・自然的環境の維持・保全に努め、仙台城跡からの眺望や市街地からの眺望に配慮した景観形成を図ります。
- 調査成果に基づく活用を図ることにより、市民や子どもたちが仙台の歴史に親しみ学び、観光客がより一層楽しめる機会を創出します。
- 仙台城跡の保存と活用を推進し、仙台城跡の価値と魅力を伝えることにより、市民の城としての意識を高め、仙台のまちづくりや交流人口の増加に寄与します。

保存の基本方針・方向性・方法 (第6章・第7章)

(主なもの)

- 石垣・堀などの遺構や自然地形、植生などを確実に保存し、後世に継承します。
- 調査研究を計画的に継続して実施します。
- 現状変更に関する方針を定め、適切に運用します。
- 史跡地内を通る交通量の多い市道については、史跡の保存と活用の面から影響がありますが早急な通行制限は困難ですので、当面車両通行と遺構保護・活用の両立を図る対策について検討を進めます。
- 遺構に関する現状把握(分布、規模、内容など)を行ったうえで保存にあたります。
- 日常の維持管理を適切に行います。
- 植生については、現状の把握を行ったうえで史跡の保存と活用の観点から維持管理の方針を検討します。

活用の基本方針・方向性・方法 (第6章・第8章)

(主なもの)

- 遺構や調査成果を積極的に公開します。
- 仙台城跡の価値を分かりやすく伝えるための環境を整えます。
- ガイド活動団体など、市民活動の支援や連携を進めます。
- 日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」を構成する文化財や市内にあるその他の文化財などと一体となった活用を図ります。
- 天然記念物青葉山の活用については、東北大学植物園と連携して行います。
- 史跡周辺にある仙台市博物館、国際センターなどの施設や、今後整備される青葉山公園の(仮称)公園センターなどの諸施設の活動と連携します。



親子で石垣の大きさを測る体験活動

整備の基本方針・方向性・方法 (第6章・第9章)

(主なもの)

- 保存と活用のために計画的に整備事業を実施し、進捗状況は定期的に検証します。
- 整備事業の計画立案にあたっては、調査成果を十分に検証し、史跡の価値の正しい理解につながるようにします。
- 現存遺構の顕在化や調査成果に基づく遺構表示などにより、城郭のかつての姿を尊重した整備を検討します。
- 多様な来訪者に対応できるよう、ユニバーサルデザインに配慮します。
- 歴史的建造物については、発掘調査により遺構が明らかとなり、かつ建物構造等に関する絵図等や古写真が存在する場合には、必要な範囲で復元整備を行います。

運営・体制の整備の基本方針・方向性・方法

(主なもの)

(第6章・第10章)

- 事業推進のために必要な体制を整備し維持します。
- 関係する機関や諸団体との情報共有や事業連携を行います。
- 市民団体の活動支援や協働を進めます。



仙台城ガイドボランティア会の活動

施策の実施計画 (第11章)

短期的施策(概ね10年程度)

- ・整備基本計画の見直し
- ・石垣測量の実施と石垣カルテの作成
- ・景観と植生管理に関する方針の検討
- ・車両通行と遺構保存対策(暫定)
- ・市民活動との連携策を検討

中・長期的施策

- ・整備基本計画に基づく整備の実施
- ・景観と植生管理に関する方針に基づく維持管理の実施
- ・遺構保存と活用の面からの、史跡地内の道路のあり方を検討

継続して実施

- ・調査・研究、調査成果等の公開

<大手門の復元について>

大手門を復元する場合、市道の代替機能の確保や脇櫓も併せて建て替えるという課題がありますので、復元整備のありかたについては、継続して検討していく必要があります。

経過観察 (第12章)

各種の施策の実現状況を把握するため、定期的に自己点検を行います。